

公民館スポーツフェスを開催!

～クップに、ボッチャに、車いすバスケットボールに熱狂!～



ボッチャ



車いすバスケットボール



室内クップ



写真提供
たかもり通信

からお年寄りまでさまざまな世代の人々が集い、スポーツを通して交流し、真剣な表情と笑顔に満ちた素敵な時間を過ごすことができました。

10月15日(土)
「令和4年度高森町公民館スポーツフェス」を開催しました。例年は公民館の分館対抗で7月、2月の年2回スポーツ大会を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて過去2年間は中止となっていました。今年度はコロナ禍でも分館の垣根を越えた多様なつながりで町民が集いスポーツを通じて交流することを目指

的に、3名以上の町民有志チームで募集を行いました。二ノ森スポーツの「クップ」「ボッチャ」をプレーし、最後には参加者全員でバスケットボールの体験会を行いました。小学生からお年寄りまでさまざまな世代の人々が集い、スポーツを通して交流し、真剣な表情と笑顔に満ちた素敵な時間を過ごすことができました。

前日まで天気が悪く開催が心配されましたが、当日はなんとか天候に恵まれ、強風の中でしたが無事に園庭で開催できました。毎年その年に在籍する子ども達と園の先生方とで考え、工夫を凝らした運動会が行われています。今年度の年長さくら組は「山吹 子狐の舞」という演目で、太鼓や笛の音に合わせた踊りを披露しました。狐のお面としっぽをつけた衣装の園児たちが、覚えた踊りを一生懸命踊る姿はとても可愛らしく印象に残りました。



山吹 子狐の舞
山吹中分館 佐々木 誉

「狐踊り」は高森町の伝統芸能のひとつです。山吹地区にある泰山神社の春祭りや神社に奉納するために披露されます。狐踊りは、獅子舞、おかめ踊りと共に山吹中、下平、山吹上①(田沢、追分)、山吹上②(北林、中島)の4地区が周り番で担当しています。



当し、4年に一度開催されるそうです。しかしながら、近年は新型コロナウイルスの影響もありお祭りが開催されていません。様々な伝統芸能が日本全

吉田神社秋祭り

吉田西分館 松下 弘之

吉田神社秋祭りが9月17日、18日と2日間にわたり行われました。昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響で規模を縮小しての開催となりました。秋祭りは、吉田神社の神事その他に、例年ですと公民館主体の天神様祭り、子供神輿につぎ「吉田の里祭り」があわせて行われるところですが、それらも今年も中止となつてしまいました。地域の子どもたちの集う機会がなくなつてしまっても残念です。子供たちの集合場所である天神様の社の飾りつけは、役員の皆様がおごそかに行われましたが、何か物寂しげに風で揺れていました。

吉田神社の秋祭りと言え、煙火奉納がよく知られており、「吉田の煙火」として、町の無形民俗文化財として指定されています。その歴史は古く元禄13年(1700年)ごろから奉納が始まったと言われており、その当時から飢饉や、干ばつを憂い、悪疫退散、五穀豊穡の祈りが花火に込められたのが由来だそう。煙火番組の中でも「大三国」と言う二本の柱に固定された花火筒は、吉田の秋の風物詩となっています。

今年の煙火奉納は、夜7時ごろ「大三国」から始まり、そのあと打ち上げ花火が行われ、8時頃に終了しました。昨年の打ち上げ花火も中止になつてしまいましたが、久々の開催となりました。スキの覆い始めの季節に、五穀豊穡



を祈り、新型コロナウイルスの感染拡大の終息への願いを込めた打ち上げ花火が、吉田の里の夜空に、きらびやかに花開きました。打ち上げ花火を見に来た50代女性の方の感想です。「毎年楽しみにしていた。昨年は、打ち上げ花火がなかったため、今年は見ることができてとても良かったです。最後のスターマインがとても素敵でした。コロナ禍が早く治まって欲しいです。」

60代男性の方は「孫の入学祝いに、一本寄進しました。今年は打ち上げ花火ができて大変良かったです。孫の健やかな成長を願いました。」家族連れの方も「子供神輿の掛け声や、笛の音がなくとも寂しかったです。園児の踊りも中止で来年は、例年通りのお祭りが出来ることを願いました。打ち上げ花火はとてもきれいでした。」

国に伝わっていますが、少子高齢化や人口減少により、どこ地域でも後継者不足が懸念されています。またこの最近では新型コロナウイルスの影響もあり、お祭り自体の中止も相次ぎ、伝統芸能を伝えていく事が困難な状況になってしまっています。

そういった中で、保育園の園児たちが自分達の生まれ育った地区に伝わる伝統芸能のひとつ「狐踊り」を楽しみながら覚え、地区の伝統に触れることができるのはとても良い活動であると思います。また、地域に暮らす住民としてありがたいことだと感激しました。踊りを通じて子ども達は、各地域には神社へ奉納するお祭りがあるという伝統を知ることができ、また自分が小さい頃から見聞きしていた伝統の踊りを、次代を担う子ども達が触れるきっかけにもなつて、こんな時代だけでも良いものを継いで行ける可能性と、自粛ばかりではなく開催方法を模索し未来を拓いていける希望のようなものを、踊りを見ながら感じる事が出来ました。

保育園の先生方に感謝をしながら参加する、貴重な一日になりました。

竜口分館文化祭

竜口分館 宮嶋 秀夫

竜口分館では、毎年2月中旬の農閑期に、ふれあい祭り（敬老祭）と一緒に文化祭を実施しています。過去2年は新型コロナウイルス感染症拡大で実施ができず、今年は趣向を変え、10月中旬の穏やかな日に、ふれあい祭りの招待者を中心に「ご家族やお友達の皆さんに参加していただき囲碁ボール大会と茶話会、文化祭も行うこととしました。しかし、今年も新型コロナウイルス感染症が町内で多く確認され中止を余儀なくされました。そこで過去の文化祭を振り返ることにします。



に、力作を出展していただき、ふれあい祭りにご出席いただいた皆様に出展作品を鑑賞していただく文化展の形式をとっています。作品は絵画、写真、手芸、習字、絵手紙、挿絵等の素晴らしい作品ばかりです。飾り付けにも配慮しています。

教養部で芸術センスの良い部員をリーダーとして、美術館風に順路を作り、序盤から中盤そして終盤と鑑賞される方が、順を追ってわくわくしていくような配列にし、観る皆さんを楽しませていきます。

文化グループ活動は手芸です。以前に教養部員であった頃には「二人羽織」をされたそうです。当時は教養部員がアトラクション、飾り付け、食事も手作りしていたとのこと。

今回、後沢清登さんのもとには、主事と教養部員が訪問し、お二人は「区民の方にお祝いをしてもらえて嬉しい」と、ニコニコされておられました。これからも心身ともに健康でお過ごしください。

日頃逢えない人と旧交を温められる「敬老祭ふれあい広場」が、来年こそは盛大に開催できたらと思います。

恒子さんは趣味の美人画や南信州短歌教室に所属され、短歌作りを楽しみ、畑作業にもいそしまれ、病院、郵便局、コンビニなどは歩いて行かれていま

長寿祝いでお弁当・紅白まんじゅうをお届け

大島山分館 宮澤 ふみ子

大島山区は10月9日、区内の高齢者に敬老の日を祝うお弁当と紅白まんじゅうを区長と分館長からのお祝いの手紙を添えてお届けしました。

対象は75歳以上の高齢者88名と65歳以上の一人暮らしの方5名の合計93名の方に、分館長、主事、教養部員が手分けをしてお届けしました。今年も新型コロナウイルスが世界的に広が

登さん(95歳)は、奥様の恒子さん(89歳)とともに、とても元気です。長寿の秘訣は毎日の晩酌。好き嫌いがなく、特に好物はお餅とのこと。

恒子さんは趣味の美人画や南信州短歌教室に所属され、短歌作りを楽しみ、畑作業にもいそしまれ、病院、郵便局、コンビニなどは歩いて行かれていま

品、絵手紙等を作成する皆様だけでなく、民謡や歌謡に合わせた踊るグループの皆さんが、ふれあい祭りの舞台で、仮装をして踊っていた。祭りの宴を盛り上げてくださいます。

このように、竜口分館は文化活動を通して地域の皆さんと交流を深め、住みやすい地域の実現を目指しています。

近い将来、新型コロナウイルスの感染が終息し、分館事業が再開して、皆さんの笑顔や賑やかな声を聴けることを期待してやみません。

品、絵手紙等を作成する皆様だけでなく、民謡や歌謡に合わせた踊るグループの皆さんが、ふれあい祭りの舞台で、仮装をして踊っていた。祭りの宴を盛り上げてくださいます。

再生可能エネルギー

活用に向けた

岸田政権が次世代型原発の建設を検討しているそうだが、私はこの動きに疑問を感じる。福島第一原発事故から11年が経過しているのに、事故後の処理が済んでいない。廃炉に向けて溶け落ちた核燃料(デブリ)を取り出す作業の困難さがある。ためて浮き彫りになっている。原発のデブリの取り出しは事故当初、原子炉格納容器の破損を冠水する工法を検討していたが、損傷した容器の補修が難しく断念し、新たに格納容器を開く建屋全体に水を満たす冠水工法というものを検討しているようだ。一段と大がかりな工法となる。

巨大な構造物を実際に造れるのか。溜めた水は大量の汚染水になる。漏水を防ぐ高い技術が必要になり、地震対策も欠かせない。工事は長期になり莫大な廃炉費用がさらに膨らむ可能性がある。私はこんな事が本当に実現できるのか疑問に思うと同時に、このような状況下で原発建設を推進することに不安を感じる。

これからの時代は再生可能エネルギーをメインの電力源として考えていくべきだ。私は

しかし、新型コロナウイルスがまだ猛威を振るっていますので、3年ほど分館事業を中止せざるを得ない状況が続いています。

まちのとしょかん

10月27日から11月9日は読書週間でした。読書の秋に行われた、町立図書館での展示や、たかもり読書クラブほんとのイベント「ブックマルシェ」の様子をお伝えします。

図書館の本を使ったものづくり

図書館には、読み物だけでなく様々な分野に関する資料が所蔵されています。ものの作り方の本も充実しています。本の様々な楽しみ方を紹介する機会として、図書館の本を参考にしたり、着想を得て作られたりした作品を集めた作品展を開催しました。



影絵を制作した吉田区の宮沢鎮男さんは、「これまでにいくつも作品を作ってきた。影絵には、絵や写真とはまた違う、点灯したときの感動がある。どんなものでも、自分で何かを作る体験は一味違う喜びがある。」と話してくれました。展示を通して、図書館の本を活用しながら、製作活動に楽しみを見出している様子をみなさんと共有することができました。



「図書館・本とものづくり展」と題したこの展示

は、11月3日から12月6日まで行われ、図書館入口に子どもから大人まで総勢13名の皆さんからお借りした、編み物や折り紙、木彫、ペーパークラフトなどの作品と、関連する本がならびました。

保育園でブックマルシェ

今年度、本に親しむきっかけづくりとして未就学児を対象に行っているブックマルシェを、保育園・認定

